

均音圧レベル差の測定値又は設計値を図1に転記し、その値がすべての周波数帯域において、ある基準曲線を上まわるとき、その最大の基準曲線の呼び方により、しゃ音等級を表わすものとする。ただし各周波数帯域の測定値又は設計値には、それぞれ2dBを加えることができる。

3.2 床衝撃音レベルに関するしゃ音等級

衝撃源別に中心周波数 63, 125, 250, 500, 1000, 2000, 4000Hz の1オクターブ帯域における床衝撃音レベルの測定値又は設計値を図2に転記し、その値がすべての周波数帯域において、ある基準曲線を下まわるとき、その最小の基準曲線の呼び方によりしゃ音等級を

ら)とその等級の呼び方は図1に示すとおりとする。

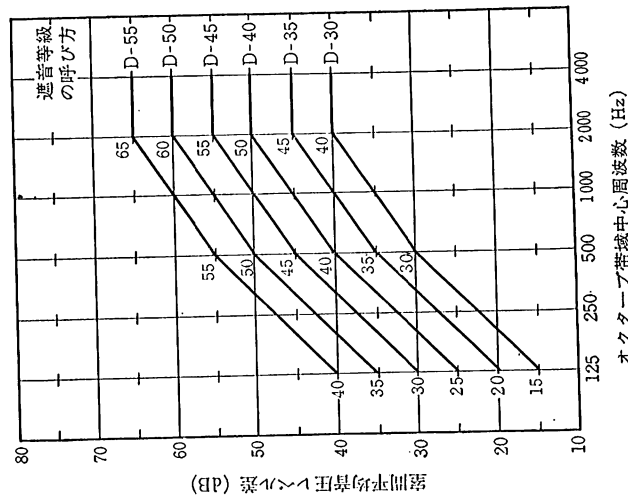


図 1

2.2 床衝撃音レベルに関するしゃ音等級の基準周波数特性 (以下基準曲線という) とその等級の呼び方は図2に示すとおりとする。

3. しゃ音等級の求め方

3.1 室間平均音圧レベル差に関するしゃ音等級

中心周波数 125, 250, 500, 1000, 2000, 4000Hz の1オクターブ帯域における、室間平

均音圧レベル差の測定値又は設計値を図1に転記し、その値がすべての周波数帯域において、ある基準曲線を上まわるとき、その最大の基準曲線の呼び方により、しゃ音等級を表わすものとする。ただし各周波数帯域の測定値又は設計値には、それぞれ2dBを加えることができる。

3.2 床衝撃音レベルに関するしゃ音等級

衝撃源別に中心周波数 63, 125, 250, 500, 1000, 2000, 4000Hz の1オクターブ帯域における床衝撃音レベルの測定値又は設計値を図2に転記し、その値がすべての周波数帯域において、ある基準曲線を下まわるとき、その最小の基準曲線の呼び方によりしゃ音等級を

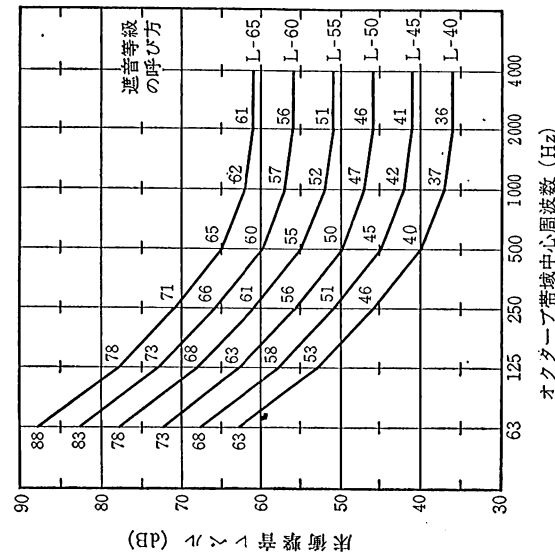


図 2

表わすものとする。ただし各周波数帯域の測定値又は設計値から、それぞれ2dBを減ずることができる。

4. しゃ音等級を求めるための測定方法

しゃ音等級を求めるための測定方法は次による。

4.1 室間平均音圧レベル差の測定方法は、JIS A 1417 (建築物の現場における音圧レベル差の測定方法) による。

4.2 床衝撃音レベルの測定方法は、JIS A 1418 (建築物の現場における床衝撃音レベルの測定方法) による。但し、衝撃源の種別を明記する。